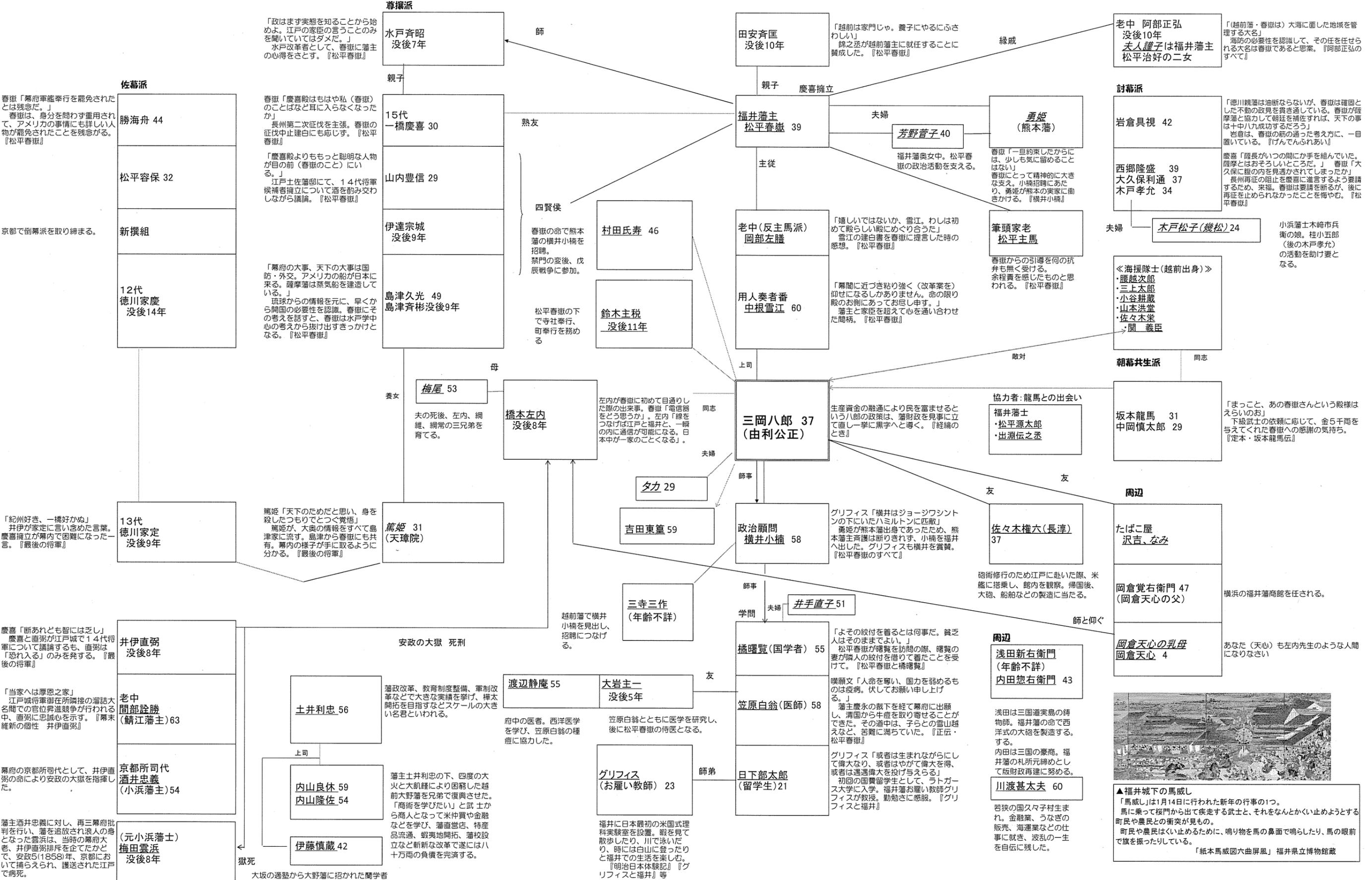


# 由利公正を中心とした人物相関図

年齢・・・大政奉還時(1867.10.14)



春嶽「幕府軍艦奉行を罷免されたとは残念だ。」  
春嶽は、身分を問わず重用されて、アメリカの事情にも詳しい人物が罷免されたことを残念がる。『松平春嶽』

京都で倒幕派を取り締まる。

「紀州好き、一橋好かぬ」  
井伊が家定に言い含めた言葉。慶喜擁立が幕内で困難になった一言。『最後の将軍』

慶喜「断あれども暫にはよし」  
慶喜と直弼が江戸城で14代将軍について議論するも、直弼は「恐れ入る」のみを発する。『最後の将軍』

「当家へは厚恩の家」  
江戸城将軍御在所隣接の溜詰大名間で官位昇進競争が行われる中、直弼に誠意を示す。『幕末維新の個性 井伊直弼』

幕府の京都所司代として、井伊直弼の命により安政の大獄を指揮した。

藩主酒井忠義に対し、再三幕府批判を行い、藩を追放され浪人の身となった雲浜は、当時の幕府大老、井伊直弼排斥を企てたことで、安政5(1858)年、京都において捕らえられ、護送された江戸で病死。

「政はまず実態を知ることから始めよ。江戸の家臣の言うことのみを聞いてはダメだ。」  
水戸改革者として、春嶽に藩主の心得をさとす。『松平春嶽』

春嶽「慶喜殿はもはや私(春嶽)のことはなど耳に入らなくなったか」  
長州第二次征伐を主張。春嶽の征伐中止理由にも応じず。『松平春嶽』

「慶喜殿よりももっと聡明な人物が目撃(春嶽のこと)にいる。」  
江戸土佐藩邸にて、14代将軍候補者擁立について酒を酌み交わしながら議論。『松平春嶽』

「幕府の大事、天下の大事は国防・外交。アメリカの船が日本に来る。薩摩藩は蒸気船を建造している。」  
琉球からの情報を元に、早くから開国の必要性を認識。春嶽にその考えを話すと、春嶽は水戸学中心の考えから抜け出すきっかけとなる。『松平春嶽』

篤姫「天下のためだと思い、身を殺したつもりでとつく覚悟」  
篤姫が、大奥の情報をすべて島津家に流す。島津から春嶽にも共有。幕内の様子が手に取るようになる。『最後の将軍』

安政の大獄 死刑

藩政改革、教育制度整備、軍制改革などで大きな実績を挙げ、樺太開拓を目指すなどスケールの大きい名君といわれる。

藩主土井利忠の下、四度の大火と大飢饉により困窮した越前大野藩を兄弟で復興させた。「商術を学びたい」と武士から商人となって米仲買や金融などを学び、藩直営店、特産品流通、蝦夷地開拓、藩校設立など斬新な改革で遂には八十万両の負債を完済する。

大坂の通塾から大野藩に招かれた蘭学者

「嬉しいではないか、雪江。わしは初めて殿らしい殿にめぐり合うた」  
雪江の建白書を春嶽に提言した時の感想。『松平春嶽』

「幕閣に近づき粘り強く(改革案を)仰せになるしかありません。命の限り殿のお側にあってお尽し申す。」  
藩主と家臣を超えて心を通い合わせた間柄。『松平春嶽』

左内が春嶽に初めて目通した際の出来事。春嶽「電信留をどう思うか」。左内「線をつなげば江戸と福井と、一瞬の内に通信が可能になる。日本中が一家のごとくなる。」

「よその紋付を着るとは何事だ。貧乏人はそのままよい。」  
松平春嶽が曙寛を訪問の際、曙寛の妻が隣人の紋付を借りて着たことを受けて。『松平春嶽と曙寛』

嘆願文「人命を奪い、国力を弱めるものは疫病。伏してお願い申し上げます。」  
藩主慶永の裁下を経て幕府に上願し、清国から牛痘を取り寄せることができた。その道中は、子らとの雪山越えなど、苦難に満ちていた。『正伝・松平春嶽』

グリフィス「あるいは生まれながらにして偉大なり、或者はやがて偉大を得、或者は運命偉大を投げ与えらる」  
初回の国費留学生として、ラトガース大学に入学。福井藩お雇い教師グリフィスが教授。勤勉さに感服。『グリフィスと福井』

「あなた(天心)も左内先生のような人間になりなさい」

「まっこと、あの春嶽さんという殿様はえらいのお」  
下級武士の依頼に応じて、金5千両を与えてくれた春嶽への感謝の気持ち。『定本・坂本龍馬伝』

「あなた(天心)も左内先生のような人間になりなさい」

「あなた(天心)も左内先生のような人間になりなさい」

「あなた(天心)も左内先生のような人間になりなさい」

「あなた(天心)も左内先生のような人間になりなさい」

「あなた(天心)も左内先生のような人間になりなさい」

「あなた(天心)も左内先生のような人間になりなさい」

「あなた(天心)も左内先生のような人間になりなさい」

「あなた(天心)も左内先生のような人間になりなさい」

「あなた(天心)も左内先生のような人間になりなさい」

▲福井城下の馬威し  
「馬威し」は1月14日に行われた新年の行事の1つ。馬に乗って桜門から出て疾走する武士と、それをなんとかい止めようとする町民や農民との衝突が見もの。町民や農民はくい止めるために、鳴り物を馬の鼻面で鳴らしたり、馬の眼前で旗を振ったりしている。  
「紙馬威図六曲屏風」 福井県立博物館蔵

